

おおきなもの

わたしはちいさい

小さい

my

屋根ものぼれない

ずうとおんなじ人とおんなじ屋根の下暮らししている

のに

my

夜も抜け出せない

狭いペランダに置かれた椅子 今宵の終わりをタダ見つめている

わたしはちいさい

小さい

のに

ので

心のうちにおおきなものを囲っている

いつでも 飛び込めるように

淵にかけて 底のほうを覗いている

消失点がある

わたしは おおきなものを望んでいる

師の半分は それを知っているという

もう半分には口がもうない

かみさまがいるバンドがあった

おおきなことがあったという

わたしは 知りえない

うちに籠って 昇る月を眺めている

かいている

わたしは 望んでいる

この世界が まっ平らになるようなこと

わたしは 望んでいる

おおきなものを

わたしだって

全部忘れて 見てみたい景色があった

全部さかさまにして かみさまに 遭いたかった

せめて不真面目に生きる 生きない 生きる 生きない

全部真似事

おおきな火を見たいという感情があった

忘れた ふりをして

街なかで 煙草の煙をちよつと吸った

ねこのしが もつともおおきかった

セミがおおきく鳴く

わたしも 生まれたてはよくないたという

雲が おおきい

過去が 今にも

過去になろうとしている おおきな過去が

階段を降りていくわたし

一段飛ばし 舞台を 飛び降りるわたし

内側に 全部 ししまい込んで

降りていくわたし 全部わたし

雲を 粗い白墨字真にして

わたしを 拡大する 拡大すると すかすかな わたし
ね

わたしはちいさい

小さい

tiny

他人事 みたいに

おおきなものが崩れていくのを

おおきなものが崩れていく

のを

ひとことみたい に

笑っている